

北神けいろうの国政報告：11月号

○いつも大変お世話になっています。

経済産業大臣政務官に就任してから、第三次補正予算において、東日本の復興ならびに産業の空洞化に対する予算を盛り込みました。野党の協力を得て、早急に国会を通して行かなければなりません。

地元の課題にも、迅速に対応！

○地元のための仕事も精力的に行っています。先月は、国土交通省の河川事務所と協力しつつ、嵐山の河川の安全確保ならびに見晴らしを改善するための第一歩として、渡月橋南側の河川内の樹木伐採を指示しました。そもそも、日吉ダムが出来上がってから、嵐山の保津川・桂川に砂利が蓄積していました。さらに、いつの間にか、三角州が形成され、その上に、草木がぼうぼうに生えてしまいました。

○この状態は、川辺に住んでいる方々にとって危険です。最近、集中豪雨や台風の水害が多い。渡月橋を水浸しにするくらい川の水が上がり、地域の住民に不安が走ったのも、記憶に新しい。流木の被害も当然考えられます。本格的な浚渫作業は、川下から進めています、これも加速していかなければなりません。

当面の維持管理対策として、今回の作業を国土交通省に指示したところであります。

風評被害に負けず、京都の魅力を世界に発信！

○また、「世界の嵐山」であります。観光の季節には、海外からも国内からもたくさんの観光客が嵐山の見事な風景を楽しみに来ます。

以前は、松尾橋あたりから見渡せば、渡月橋を中心に、すばらしい光景が繰り広げられました。ところが、河川内がジャングル状態になり、渡月橋の姿かたちも見えなくなってしまいました。こうしたこともあり、何とか紅葉の季節にまで間に合わせたいという一心で、国土交通省には大変無理なお願いをしましたが、早急にとりかかっていただき、感謝申し上げたいと思います。

○大体、東の鴨川に比べて、西の桂川の整備がまったく進んでいません。こうしたことから、私は、「世界の嵐山観光構想」のような事業を開始したいと考えています。そのためにも、現在の観光庁長官の溝畑氏とこうした構想に向けて知恵をしぼります。溝畑長官も、嵯峨野出身です。故郷への思いには、熱いものがあります。

一緒に連携して、全力で取り組んでまいります。

○古来から、治山治水は、政治の要諦であります。今後も地元のために奮闘してまいりますので、皆様のご指導宜しく申し上げます。